

健育会グループのテーマは「人の尊厳は皆、平等である」

医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男



「人の尊厳は皆、平等である」というこの言葉は、健育会全職員の哲学です。

日頃から、私が常に皆さんにお話ししている「人間の尊厳は平等である」という考えは、どのような患者さん、ご利用者もその人らしく人生を過ごすことであり、その人の意思を尊重し、その人らしく過ごせる環境を提供することが我々、医療人としての使命であると思っています。日々の医療や業務の中で、私たち一人ひとりが立ち返る共通の視点として、常に意識する考え方です。

私はこれまで、長年にわたり医療の現場に身を置く中で、患者さんと向き合い、家族の思いに触れ、そして多くの職員と共に働く中で、「人の尊厳は皆、平等である」という思いを、医療を通じて強く抱き続けてきました。人は、病気の種類や重さ、年齢や背景、立場の違いによって、尊重の度合いが変わる存在ではありません。医療に携わる私たちは、その事実を誰よりも深く理解していなければならないと、私は考えています。

医療の現場には、さまざまな立場の人が関わっています。患者さん、ご家族、地域の方々、そして医師、看護師、セラピスト、医療技術職、事務職、委託スタッフを含むすべての仲間。役割や立場、経験の違いはあっても、そこに優劣があるわけではありません。

「人の尊厳は皆、平等である」というテーマは、目の前の人を、先入観や思い込みで判断していないか。忙しさを理由に、誰かの声を置き去りにしていないか。その問いを、私たち自身に投げかけるものです。



このテーマを、言葉として掲げるだけで終わらせないために、
本年は各病院・各施設において、本テーマを記したポスターを掲示します。
ポスターは、患者さんに向けたメッセージであると同時に、
私たち職員一人ひとりが、日々の業務の中でふと目にし、立ち止まり、考えるためのものです。

診療の合間に、廊下で、スタッフルームで、
「この対応は、本当に“人の尊厳は皆、平等である”と言えるだろうか」
そう自問するきっかけになればと考えています。

一年を通して、このテーマをそれぞれの現場でどう受け止め、どう行動につなげるか。
その答えは一つではありません。
だからこそ、各病院・施設、そして一人ひとりが、自らの業務や立場に照らして考え、実践していくことに意味
があります。

「人の尊厳は皆、平等である」というテーマのもと、互いを尊重し、声に耳を傾け、百人いれば百通りの方法で
患者さんの尊厳を大切にしながら、医療従事者としての使命感を持って、より良い医療と環境を築く医療人とし
て成長してほしいと思います。

このテーマが、日々の小さな行動の積み重ねとして、
患者さん、ご利用者の安心につながり、そして仲間同士の信頼につながっていくことを
期待しています。